

教えてください、あなたのことを。③1

有機農産物普及・堆肥化推進協会 代表
東京都多摩市 浅井民雄 さん

つなげるつながる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 1937年東京・四谷生まれの79才。東京大空襲の時、共に焼け出されました。1971年より多摩市在住。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 友人がいた日本生協連からの依頼がきっかけです。私は長年、デザイン会社に勤めていました。定年間近に、少しは環境や社会の役に立つ(?)仕事に特化して制作しようと、小規模のデザイン・企画制作会社を設立して仕事をしていた時でした。



日生協が1992年の国連・地球サミットに参加し、市民側からも推進しようと、自然エネルギーの活用推進、食の安全確保と自給率アップ、生ごみの資源化と有機農業促進を実現して持続可能な社会をめざそうとしたことへの協力依頼でした。廃棄物処理の中で生ごみの資源化の重要性に気付き、関心をもつようになりました。

全国2千万トンの生ごみを資源化しようという『有機農産物普及・堆肥化推進協会(略称;たい肥化協会)』の活動に協力しました。制作だけでなく全国的交流会の実施・普及や農水省への働きかけも行ないました。生ごみの資源化の法制化と普及、有機農業の推進、地方自治体での生ごみ資源化が目標とした活動でした。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけは？

A 多摩地区で生ごみ資源化を推進するプロジェクトの立ち上げに賛同して参加しました。毎年先進的な事業を進めている組織の担当者から直接話を聞けるシンポが実現しました。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 現在、有機農産物普及・堆肥化推進協会(略称;たい肥化協会)の代表ですが、協会としてはNPOから任意団体にし、全国ネットの集会を20回で終了しました。現在は不定期に生ごみ堆肥化の実践交流会や、地域からの依頼による講習会への講師の派遣や出版を行なっています。最近では「やってみませんかダンボールコンポスト」(合同出版)を編集。また、全国の生ごみ資源化の運動や事業化の支援、情報収集、現地見学・取材なども行なっています。

個人的な多摩地域の活動では、多摩市独自のダンボールコンポスト普及を行なう活動に参画しています。また、多摩市と共に環境基本計画を推進するための多摩市民環境会議の副会長をしています。そこでは環境保全活動や省エネ・創エネ活動、まち美化活動を市民側から推進する活動や、毎年「エコフェスタ」と称する市民環境団体を結集したイベントを行政と共に開催しています。

多摩地区の10万都市での「ゼロ・ウェイスト」の実現をめざす市が生まれることを願って、多摩市に住んでいるので居住地でも主張しています。廃棄物を限りなく減らし、処理にお金を掛けない資源循環のしくみをつくることの提案です。